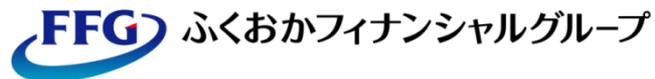


# スモールミーティング FFGの企業価値向上に向けて

---

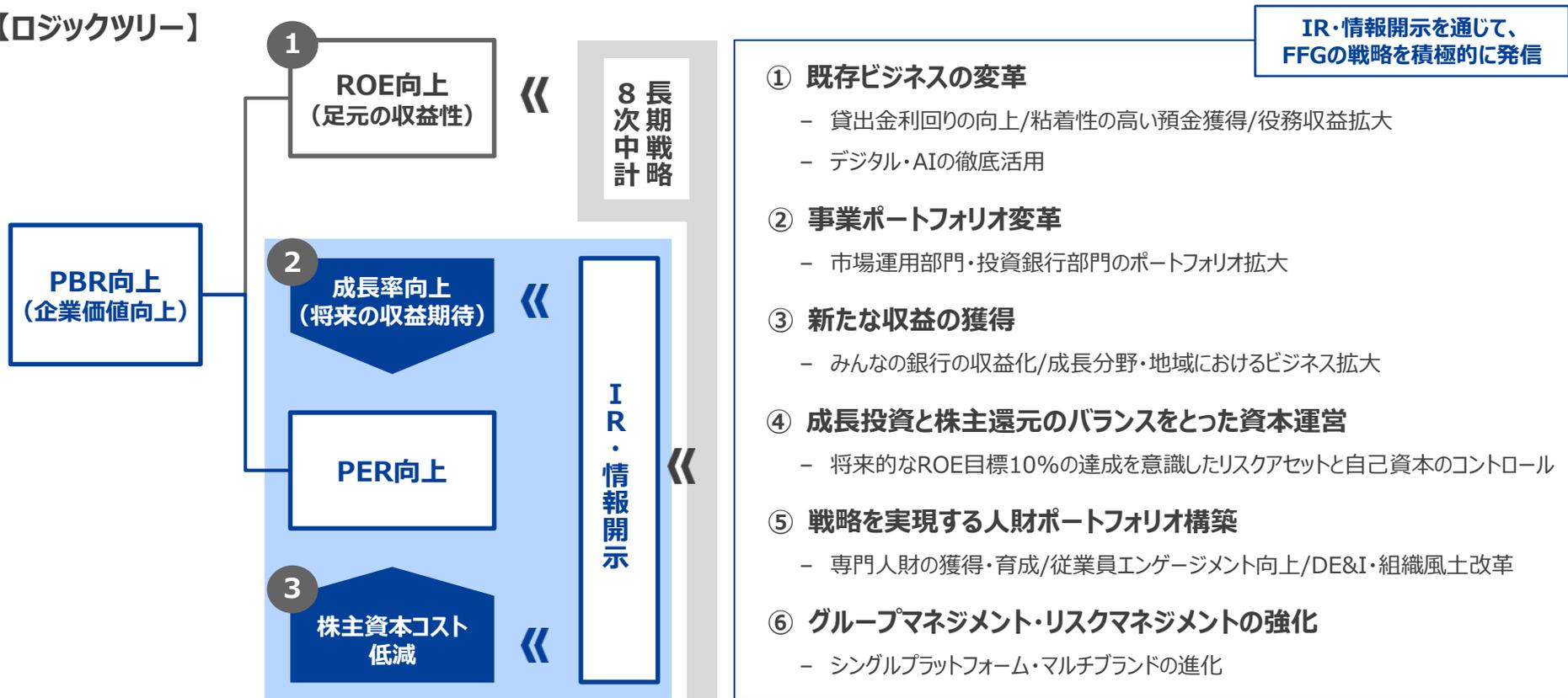
2025年7月28日



# IR活動を通じたPERの向上

- 長期戦略・8次中計の施策実行によるROEの引き上げとともに、**積極的なIRと情報開示**により、**PERの向上**を目指す

## 【ロジックツリー】



# 2025年度のIRスケジュール

◆ 各イベントのプレゼン資料・トークスクリプト・主な質疑応答については、実施後速やかに開示予定（英文含む）

時期	イベント（予定）
5月下旬	ラージミーティング【2024年度決算】
7月上旬	欧州ロードショー
7月下旬	スモールミーティング <b>本日</b>
7月下旬	統合報告書の発刊
8月上旬	第一四半期決算説明会
9月上旬	IRDay
10月上旬	北米ロードショー
10月下旬	個人投資家向け会社説明会【福岡・熊本・長崎】
11月下旬	ラージミーティング【2025年度中間決算】
1月上旬	スモールミーティング
2月上旬	第三四半期決算説明会
3月上旬	IRDay

## 〔各IRイベントの内容〕

ラージMTG	- CEOより、 <b>決算、業績予想、中長期的な経営戦略</b> についてご説明
スモールMTG	- CEOと投資家の皆さまとの <b>QAセッション</b> - <b>投資家の皆さまより、幅広くご意見を頂戴し、今後の経営に反映</b> させていただく
四半期説明会	- 経営企画部長より、 <b>1Q・3Q決算の進捗、足元のトピックス</b> についてご説明
IRDay	- 担当役員より、 <b>投資家の皆さまの関心が高いテーマ</b> （例：みんなの銀行など）について詳細をご説明

## 〔IR体制の強化〕

- ✓ IR担当者を**+ 2名増員**（担当者4名）
- ✓ 投資家の皆さまとのコミュニケーションの質・量の増加に向けて、**東京にもIR拠点**を設置

## 欧州ロードショーの状況 (2025/7月上旬に実施)

投資家の関心事項	FFGからお伝えしたポイント
①日本の金融政策	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 次回利上げは、<b>賃金上昇を見極めた上で年明け以降</b>の可能性が高いと考えている。一方で、<b>消費の増加や米国関税政策の影響</b>が好転する状況になれば、<b>前倒しになる可能性</b>もある</li> </ul>
②九州経済の成長	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 九州におけるTSMC進出の経済効果は23兆円。九州には<b>FFGをメインとする企業が約4万社</b>あり、この機会をFFGのビジネス拡大につなげていく。そのために、Q-Bassなど、地銀連携の取組みを主導している</li> </ul>
③長期的な成長戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>- デジタル・AI活用による<b>商業銀行部門</b>の成長とともに、収益性の高い<b>投資銀行部門・市場運用部門</b>のポートフォリオを拡大する。あわせて、<b>インオーガニック（デジタル・M&amp;A）成長</b>にも取り組むことで、長期戦略の目標である<b>ROE10%</b>を達成させ、企業価値を向上させる</li> </ul>
④8次中計の計数	<ul style="list-style-type: none"> <li>- <b>政策金利の見通し</b>や<b>信用コスト</b>、<b>みんなの銀行</b>等については<b>保守的</b>に織り込んだ蓋然性の高い計画</li> </ul>
⑤みんなの銀行の黒字化	<ul style="list-style-type: none"> <li>- <b>大規模な顧客基盤を持つパートナーとの協業</b>により、顧客数を飛躍的に伸ばし、<b>FY27の黒字化</b>を目指す</li> <li>- パートナー企業のニーズに合わせて、機能毎にサービスを提供できる点が競合との差別化要素</li> <li>- みんなの銀行のシステムは、<b>三菱UFJ銀行のデジタルバンクのシステム</b>に採用されている</li> </ul>
⑥インオーガニック戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 具体的な案件はないが、<b>地銀との経営統合</b>に関しては、九州内での統合の方がシナジーが大きいと考えている。また、<b>非金融を含めて異業種とのアライアンス</b>も検討していく</li> </ul>
⑦円債の投資方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>- <b>円債のデュレーションを約2年まで短縮</b>し、今後の金利上昇への耐性を強化。足元、金利の先高感があるため、長い年限の投資は控えている状況。現時点では、大規模なロスカットは想定していない</li> </ul>
⑧株主還元方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 利益成長にともなう<b>配当の維持・増配を基本</b>としており、設立以来、着実に配当額を増加させてきた</li> <li>- 足元の自己資本水準を踏まえて、<b>現状は健全性の維持と将来への成長投資を優先</b>しているが、<b>自己株式取得</b>の選択肢を排除している訳ではなく、利益が上振れした場合等には<b>都度検討</b>していく</li> </ul>